

第23回綾瀬市

社会を明るくする運動作文コンテスト

入賞作品集



令和6年度

綾瀬市社会を明るくする運動実施委員会

目次

綾瀬市長賞

- ・ 中学校の部
「ボランティア活動による気づき」・・・・・・・・・・・・・・・・黒田 桃子 綾瀬中学校二年 1

綾瀬市社会を明るくする運動実施委員会委員長賞

- ・ 小学校の部
デジタル機械の恐ろしさ・・・・・・・・・・・・・・・・井上 雄貴 寺尾小学校六年 2
- ・ 中学校の部
きつかけを見つけて社会の為に・・・・・・・・・・磯寄 実緒 城山中学校二年 3

大和・綾瀬保護司会綾瀬地区会会長賞

- ・ 中学校の部
「挨拶でつくりあげる明るい社会」・・・・・・・・・・大内 心愛 城山中学校二年 5

綾瀬市更生保護女性会会長賞

- ・ 中学校の部
明るい未来へ 私が出来る事・・・・・・・・・・・・・・・・相原 蒼空 春日台中学校三年 6

綾瀬市長賞

中学校の部

「ボランティア活動による気づき」

綾瀬中学校 二年 黒田 桃子

私たちが住む町は、安全で明るい場所であってほしいです。犯罪や非行がなく、みんなが安心して暮らせる地域を作るためには、どうすれば良いのか、これまで経験したことをもとに考えてみたいと思います。

小学校では、友達同士で助け合ったり、困っている人がいたら声をかけることの大切さを学びました。小学校でも中学校でも、タブレットパソコンが配布されましたが、特に中学校では、便利さと同時にインターネットの使い方についても気をつける必要があることを教わりました。また、家に届く市の広報誌などには、悪いことに巻き込まれないように、メールやSNSなどに届く知らない人からのメッセージには反応しないことの重要性が書かれています。これらは、他人を思いやることの大切さとともに安全を意識して行動することの重要性を伝えていると思います。

それらは普段の生活の中で訪れることに対応するような受動的な形であると言えるかもしれません。それに対して、積

極的に関わる、つまり能動的な形にしたものがボランティア活動なのではないでしょうか。社会の一員として役立つ経験を積むこと、地域全体で協力する大切さを感じることは、決して無駄ではありません。

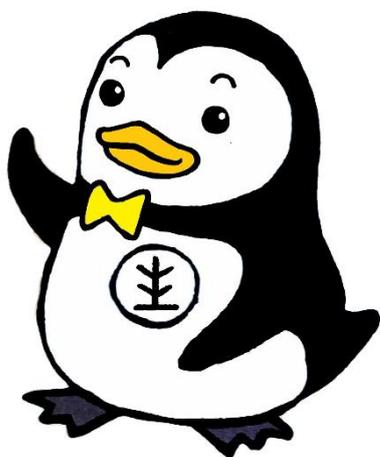
ある日曜日、私は町内で行われた美化キャンペーンに参加しました。正直なところ、親に言われて仕方なく、最初は面倒くさいという気持ちでいっぱいでした。しかし、実際に参加してみると、前から顔見知りであったもののほとんど話をしたことがない町内の方々とは会話する機会がありました。みんなが一緒に作業する中で、私は周りの人たちに見守られていることを感じ、これまでになかった感謝の気持ちが芽生えました。この経験を通じて、人と人が協力し、尊重し合うことの大切さを実感しました。周りの人たちに感謝の気持ちを持つことで、これまでと違う生き方ができるような気がしました。

その思いを持って周りを見渡してみると、違う視点を持つようになりました。私の家の周辺では、毎週月曜日に資源ゴミを指定の場所に捨てることになっています。気がつくとき、資源ゴミの種類ごとにカゴが設置されています。それは誰かが準備してくれたものです。近くの横断歩道では、私たちが安全に通学できるように、旗を振ってくださいる大人の方がいらっしゃると思います。そういえば、小学校の帰り道では、近所の人「おかえり」と声をかけてくれたことも思い出しました。これまでは、当たり前のように思っていました。ボ

ランテシアに参加した経験は、それを有り難いものだという気持ちに変えました。

以前、家族の法事があり、お坊さんがこのような問いをされました。「ありがたいの反対は何かわかりますか？」と。私はわかりませんでした。お坊さんは、「それは当たり前です」と教えてくださいました。その時は「ふーん」という思いでしたが、ボランテシアへの参加がそれを実感するきっかけとなりました。まさに青天の霹靂であったと思います。

私たち中学生の一人の力は小さいかもしれませんが、安全で明るい地域を作るためにできることは難しいことではないと思います。周りの人々に感謝の気持ちを持って、みんなが協力すれば、大きな力になります。私たちの町が、いつまでも安全で安心して暮らせる場所であるように、これからも努力していきたいと思えます。



綾瀬市社会を明るくする運動実施委員会委員長賞

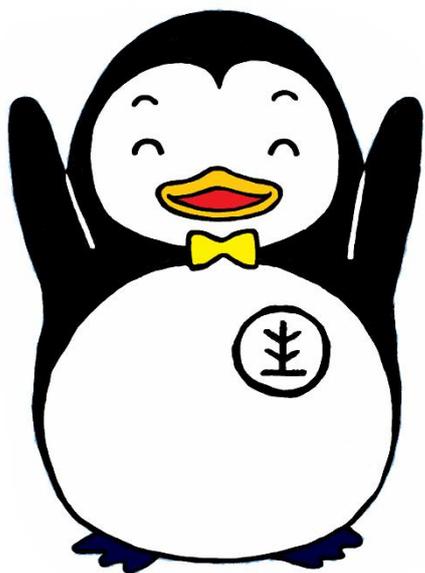
小学校の部

デジタル機械の恐ろしさ

寺尾小学校 六年 井上 雄貴

ぼくは、日常生活でデジタル機械を使っていて気づいたことがあります。それは依存しやすいことです。依存する事によつて人とのコミュニケーションをとらなくなり、ケイタイの世界に入ってしまった、知らない人と繋がりが見えない世界で人の悪口を言ったりいじめの仕方も変化してきたのでいじめられていても人にはわかりにくいと思います。LINEなどはグループにはいっていなければ何をみんなで話しているかわかりません。すぐケイタイは便利ですけどすぐこわい物でもあります。ケイタイのいじめは守りきれるかと聞かれたら、ポイステをなくすことくらい難しいような気がします。ケイタイでもし自分も悪口を言われていたら、誰に相談したらいいか。グループに入っていないければ何を言われているかわからない。そんな今のいじめをやられたら自殺したりするのわからない気がします。でもそうならないようにするには、自分だけで悩まないことだと思います。ぼくの家族はどんな事があっても話すようにと。そしてどんな事でも守ってくれ

ると。だから一人で考えずに人に相談するんだよと教わりました。たしかにどんな事でも家族や先生に相談すれば、一人ではないから解決する方法もいろいろあると思います。怖がらずに相談する。いじめは絶対によくない事です。やられてやな事はしない。自分が悪い時はちゃんと謝まる。人に優しい心をもつ。ケイタイはとても便利だけど怖いものでもある。ぼくは便利になっていくこれからの世の中でいじめの形は変化していくけど、ぼくは一人じゃない、家族や友達、学校の先生、何かあったら一人で解決しようとするんじゃない、家族や先生に相談して解決する。そして相談できる環境であるようにケイタイばかりに依存しないで人とコミュニケーションをとろうとあらためて思いました。



綾瀬市社会を明るくする運動実施委員会委員長賞

中学校の部

きっかけを見つけて社会の為に

城山中学校 二年 磯寄 実緒

社会を明るくするために、私に何かできることはないかと考えてみました。

物を奪ったりルールを守らなかったり、インターネットで誹謗中傷を書き込むのは犯罪になります。それを平気でやっている人達は「今回だけだし」「ちよつとだけなら」「バレなければ良い」そして、自分が良ければそれが正しいと感じている、自己中心的な考え方が多くだと思います。

最近のニュースでは、車や自転車での交通ルールを破る、エアコンの室外機を盗む、インターネットによる誹謗中傷の書き込みをする人がいるなどと、社会に悪い影響を及ぼすようなものが前よりも目に入るようになりました。身近なところでは、妹と出かけた時に、車が信号無視をしているところ、歩行者が赤信号を無視して横断歩道を渡っているところを見ました。また、夏休み中に友達と行ったお祭りや、屋台で買ったものを食べ終わった人が割り箸のようなものを、排水溝に落とすところも見ました。このようなごみのポイ捨てなど

は、大人も子供も関係なく誰もが、つい面倒くさがってやってしまおうと思います。しかし、誰かがゴミを道端に置いていき、他の人もそれをどんどんやっていってしまうと、道がゴミでいっぱいになり近所の人達が困ってしまうこともありま

す。

では、私達はどのようなことをすれば良いのでしょうか。私のような大人ではなく、かといって小学生ほどは弱くない中途半端な状態の中学生がとる行動一つで本当に何か変化はあるのだろうかと最初は思いました。ですが、今では私達にもできることはあると考えています。

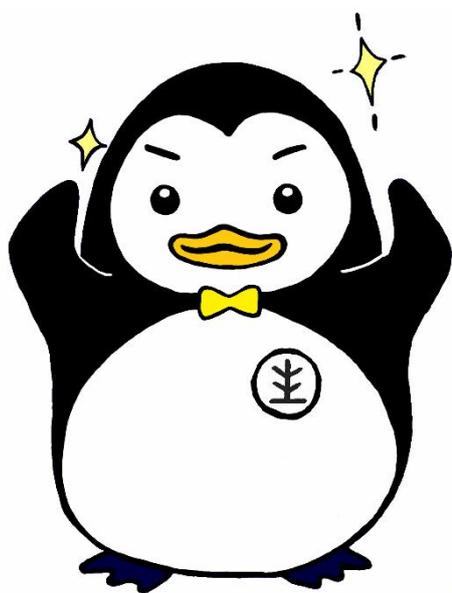
例えば挨拶です。学校の中、近所の人達とは挨拶が行われています。いつもは声を相手からかけてもらい、それに返しているだけかもしれませんが、自分から明るく声をかけるだけでもお互いに気持ち良く生活できるのではないかと思います。

困っている人がいた場合も同じです。もし、自分が困っている時に誰かが声をかけてくれたらきつと嬉しいはずです。見て見ぬふりをするのではなく、自分がされて嬉しかったことを思い出して行動に移せれば、社会に生きる人の為に何か力になることができたのではないかと思います。

他にも、面倒くさくてもゴミを持ち帰る・ポイ捨てをしない、交通ルールを守る、近所の迷惑にならないように声や音の大きさに気を付けるといった「きつかけ」を見つけて、些細なことでもたくさんの人がやっていけば、社会も人もより

良くなっていくのではないかと思います。

今の私には、小さなことを積み重ねていくことしかできません。しかし、それすらできていない人もたくさんいるのが現実であることを知っています。そうしたことをごまかした上で、挨拶や困っている人を助けるといったことだけではなく、他に自分にできることは何もないのか、自分がされて嬉しかったことを他の誰かにもやってみようと、たくさんの人が思っていることができれば、社会は明るい方へ向いていくと考えます。私も、この社会に生きていく一人として、他にできること、きつかけを見つけていきたいと思っています。



大和・綾瀬保護司会綾瀬地区会会長賞

中学校の部

「挨拶でつくりあげる明るい社会」

城山中学校 二年 大内 心愛

通学の時、いつも元気に笑顔で「おはよう。いつてらっしやい。」と言ってくれるおじいちゃんおばあちゃんがあります。その挨拶を聞くと学校に行きたくない気持ちや、いやな気持ちや吹き飛んでいくような気がして、一日のやる気がでて、私も元気に挨拶をする事ができます。時には、「大きくなったね。」と言ってくれる方もいます。悩みを聞いてくれる方もいます。なので私は、いつも地域の方に支えられながら生きていくんだなと思います。そんな素敵なこの地域と人と人とのつながりを大切にしていきたいと思っています。ですが、ニュースを見ると犯罪や事故など悲しい出来事をたくさん見ます。私はそのようなニュースを見るたびに心がしめつけられるような気がします。安心して暮らせる地域もある中でなぜ、たくさんさんの犯罪などが起きているのでしょうか。私は大切にしたいと思っている人と人とのつながりに注目して考えてみました。

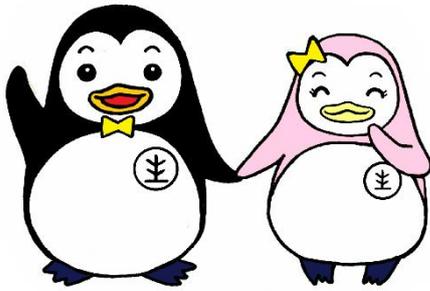
私は部活動の大会が大好きです。ですが、初めての大会で

は二位、三年生が引退してから初めての大会でも二位、ベスト4から県大会に行ける県央大会ではベスト8、などいつもおしいところまで行きますが、負けてしまいました。そしていつも泣きます。そんな私にはげましの声をかけてくれるのは家族です。かけてくれた言葉で一番に心に残っている言葉は「泣いた分だけ、人は強くなれるよ。」という言葉です。悔しくて、悲しくて、どうしようもない気持ちによりそってくれているような気がして、次はもつと頑張るぞって気持ちにさせてくれるからです。私にはこのように一緒によりそってくれる人がたくさんいます。ですが、犯罪をしてしまった人たちはどうなのでしょう。もともとはみんな同じ人間です。でも、歩む人生の道は人それぞれです。そこでうまくいかないことはたくさんあると思います。その時によりそってくれる人がいるかいないかで人の心は大きく変わると思います。犯罪をしてしまう人はよりそってくれる人がいなかったり、相談しづらい事情がある人達だと思います。それで簡単に言ってしまうのが気持ち爆発してしまうということだと思います。その気持ちを爆発させないようにするためによりそってくれる人が近くにいるということが大切だと思います。だけど、自分だけがよりそってもらうのではなく、自分もその人によりそってあげられる関係が人と人とのつながりだと思います。私は考えています。

人と人とのつながりの関係を築くために、挨拶が私は、大切だと思います。このことに気づくまではただただ挨拶をし

ていただけでした。けれど、今は「おはよう」や「ありがとう」、「さようなら」などの短い言葉がコミュニケーションをとるきっかけになると思います。コミュニケーションをとると何が良いのか、それは、お互いの気持ちを伝え合えたり理解を深めたりすることで信頼がうまれていくことです。そこでまた人と人とのつながりがうまれていくきっかけとなるのです。

私は、自分の住んでいる安心できる地域が大好きだし、ほこりに思っています。よりそい合える関係を挨拶を通して築いていくことで『犯罪のない社会』⇨『明るい社会』につながるっていくのだと思います。喜ぶときは一緒に喜ぶ、悲しいときは一緒に悲しむ、そんな相手の気持ちを理解できる人に私はなりたいです。



綾瀬市更生保護女性会会長賞

中学校の部

明るい未来へ 私が出来る事

春日台中学校 三年 相原 蒼空

私は社会を明るくするために自分や皆ができることを考えてみました。それは、犯罪や非行をさせないようにすること、そういった過ちを犯した人達が立ち直って社会に復帰できるように迎え入れてあげることだと思いました。ですが、前提として挨拶や思いやりができることが重要です。

なぜ、私がこれらの行動が社会を明るくするために大事だと思ったのか、それは実際に体験したことがきっかけでした。それは自分が以前、ろうかを走って友達をケガさせてしまったことです。当然私は先生に呼ばれ怒られました。その時に「ケガで済まなかったら立派な犯罪ですよ」と言われ自分のしたことの後悔がこみ上げて落ち込みました。授業後、ケガをさせてしまった友達が来て、「俺は大丈夫だから、気にすんなよ。次はやんないようにな。」と優しく声をかけてくれて、それから落ち込みも晴れていつも通り過ごせました。この体験から、あやまちをした人に手を差し伸べてくれる人がいるだけで皆のもとに復帰しやすいと身をもって感じました。

誰も手を差し伸べてくれないと社会復帰できずに生きるため
犯罪を犯してしまう可能性があるとテレビ番組で見て、とて
も興味深いと感じました。前に犯罪を犯してしまっただから生
きるための手段をなくすというのはおかしいので、政府が行
っている「更生保護」や出所後の指導や支援をさらにすすめ
ていくことも重要だと思いました。

次に、挨拶や思いやりが社会を明るくできると思った理由
は、近所の人、地域の人と人間関係をつくることのできる「近
所の目」が犯罪の抑止力となるからです。住民どうしの会話が
が増えることで信頼関係も築けるため、会話やコミュニケー
ションができる地域の祭り、行事をつくることも犯罪防止の
助け合ったり、ささいなことでも力を貸してくれる頼りにな
る存在になったりするし、近所の目をパワーアップさせてい
くことで犯罪を減らしていくことができ一石二鳥のため挨
拶・思いやり・会話は増やしていくべきだと思います。

犯罪をしてしまう人は、心や身体に何らかのダメージを負
っていて、物事の判断能力が鈍っている人が多いと思いまし
た。自分もいけない事をした時は、気分が落ち込んだり、少
し身体が火照ってしまいます。調子が悪い時に多かったので、
何か少しでも身体が変だったら、信頼出来る周りの人に言う
こと。心の傷、メンタル面では、頼れる人に相談、それも困
難な場合は、メンタルケアカウンセリングなどに頼ることも
必要だと思います。人に話す、頼ることで気持ちが悪くなり、

犯罪から人を遠ざけてくれると私は思います。

私は社会を明るくしたいと思い、今回何が出来るかを考え
ましたが、一番思っただけのは、やはり挨拶です。挨拶をする
と
言うことは、それだけでコミュニケーションを取れる誰に
もできることです。声をかけ合うことで、犯罪防止につな
が
れば簡単なことです。これを一人ひとりが心がけていけば、
『塵も積もれば山となる』のことわざのように犯罪のない明
るい社会につながっていくと私は思います。私達の小さな行
動で、社会全体が明るくなれるように、まず自分からしっか
り挨拶をしていこうと思います。

